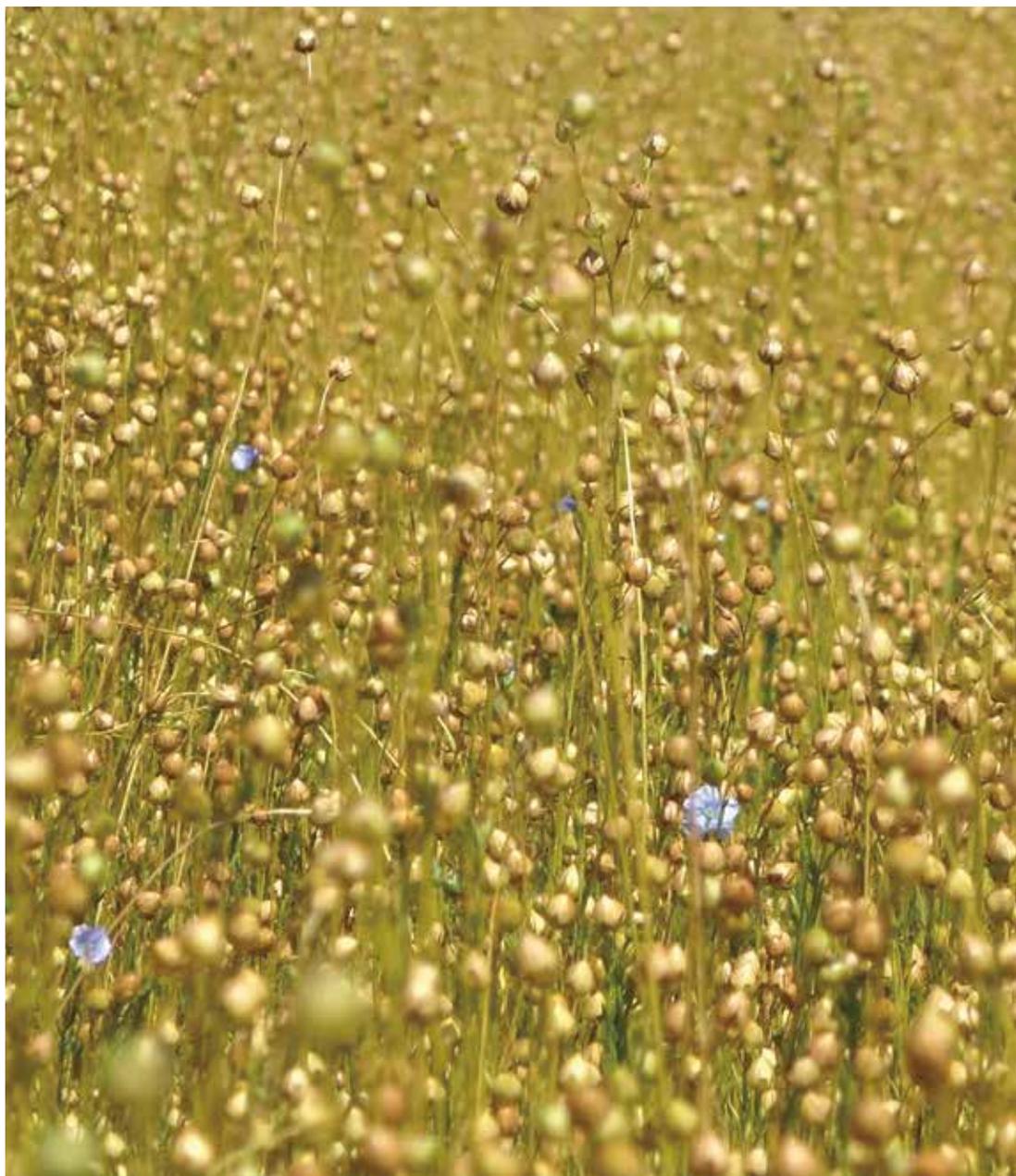


麻に つるる



収穫前のリネン畑（北フランス・ノルマンディー地方）

日本麻紡績協会

麻につつる

もくじ

・活動レポート CELC 第1回麻国際会議への参加	・・・	2
・マックス・ヴェーバーとリネン	・・・	3
・業界レポート リネン事情	・・・	6
ラミー原料状況	・・・	7
・会員企業紹介 株式会社ダイイチ	・・・	8
・プルミエール・ヴィジョン レポート		
❖ 株式会社森下メリヤス工場	・・・	9
❖ カネマサ莫大小株式会社	・・・	10
❖ 田村駒株式会社	・・・	11
・麻の最新技術レポート	・・・	13
・日本麻紡績協会 会員企業一覧	・・・	16
・会員企業ネットショップ URL 一覧	・・・	17

活動レポート



欧州麻連盟（CELC）主催 第1回麻国際会議への参加

CELCは、亜麻（リネン）の歴史的な生産及び流通拠点であったベルギーのブリュッセル市で第1回麻国際会議を開催しました。

日本麻紡績協会にも招待状が届き、協会は活動強化策の一環として代表団を組織し、23名が参加しました。参加者は欧州を中心に日本、中国、インドなど海外80名を含む約250名が参加する大規模な国際会議となりました。会議では飯田会長が日本での活動報告をするなど、CELC本部のDouchy会長をはじめ、各国代表団と交流を深めることが出来ました。



CELCの顧客である中国・日本・インドが参加することにより、世界の麻産業の川上（原料・紡織関係）である8割の重要なプレーヤーが集まりました。グローバル化した麻市場の状況、各国のマーケティング及び文化的指針のレビューを行うなど、広大な麻プロモーションへの戦略的な会議は、大変意義深いものになりました。



CELCの今後のプロモーションとして、麻の生産における各工程を対象にトレーサビリティの保証として設けられた新ロゴ「CLUB MASTERS OF LINEN」の扱いや、欧州麻製品関連市場を広くカバーする品質保証ラベル「European FLAX」の公式決定は、日本マーケットでも重要な位置付けになると考えられます。

また、日本代表団は上記国際会議以外にもCELCの紹介により仏Safilin社の潤紡績工場（ポーランド）や伊Albini社の麻織布工場など、最新の生産工場を見学することが出来ました。



マックス・ヴェーバーとリネン

前田まゆみ

リーマンショックのあった2009年ごろ、週刊誌などによく、マックス・ヴェーバー（1864～1920）の言葉が引用されていました。

「精神のない専門人、心情のない享楽人。この無のものは、人間性のかつて達したことのない段階にまですでに登りつめた、とうぬぼれるだろう（大塚久男訳）」というのが、それです。1905年頃に書かれた「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」（以後、略して「プロ倫」）という古典的名著の結びの句で、資本主義が進んで行くと、人は「心」を見失い、荒廃していっくだろう・・・という意味の予言として、知られています。

ヴェーバーの著作を、たまたまわたしが知っていたのは、昔、亡父の本棚にあり、また、食卓の話題として、父がよく繰り返し広げていたからです。

ヴェーバーという名字は、英語で言うと weaver、つまり「機屋」の意味で、彼の父方の祖先はリネンを商いして財を成したそうです。「プロ倫」では、伝統産業が、資本主義流のビジネスに変わる具体例として、当時のリネン産業があげられています。

「マックス・ヴェーバー入門」（山之内靖著 岩波新書）によると、ヴェーバーは、母親がとても厳しい「プロテスタント」だったようです。

ヴェーバーが言うのには、資本主義経済の特徴になっている「合理的に利潤を追求する考え方」は、イギリス、オランダ、そしてアメリカなどでとくに発達しており、これらの国々は、プロテスタント、つまりキリスト教の中でも、ジャン・カルヴァンの唱えた「カルヴィニズム」の影響が強いことから、それが、営利追求の精神に関係しているのではないだろうか、と。

一応プロテスタントの学校に通っていたにも関わらず、つい最近までは、カルヴィニズムについてなど、ほとんど真剣に考えたことはありませんでしたが、この際、少しひもといってみました。

カルヴィニズムの大きな特徴の一つは「予定説」です。カルヴァンは、「天国に行ける人は、最初から決まっています、でもそれは、人々には知らされていない」と説きました。そして、教会に寄付するなどの善行とか懺悔などでそれは変更できないから、そんなの無駄！と、ぼっさり。

カルヴァンの生きた16世紀当時、カトリック教会の腐敗が問題になっていて、カルヴィニズムはそれに対する批判として生まれた思想でした。カルヴァンは、きらびやかな教会など神は喜ばない、贅沢は墮落であり、質素儉約して勤勉に生きることが神の意にかなう、神とは個人個人が直接心の中で対話すればいい、とも説いたのです。また、偶像崇拜も否定したため、今も、プロテスタントの教会には、磔にされたイエス像のような彫刻や受胎告知の壁画などは一切なく、シンプルな十字架だけが置かれている、抽象的なデザインがふつうです。

こんな革新的な考え方は、当時の人たちをめざめさせたと共に、恐怖に陥れた面があったようです。地元の教会を中心に、地縁血縁でつながり、ダメな所があっても懺悔すれば

ゆるされる、ある意味ユルく、良く言えば包容力のある共同体の中で生きて来た人々の心を、個人単位に切り離しました。そして、天国に行ける人、行けない人は最初から決まっているけれど、自分たちには決して教えてもらえない、となると「自分は天国に行けるのか、行けないのか？隣のアイツはどうだろう？」と心配するようになりました。

当然ながら、人は誰しも、自分は天国に行けるんだ、と思いたくなります。そこで、一生懸命働いて、立派な社会人として生きようとします。それ自体は良いことですし、そうすることで、「自分はこんながんばってるんだから、きっと天国に行ける」と安心できるのです。質素儉約、勤勉にがんばった結果、お金が儲かりますが、贅沢は敵だし、罪滅ぼしの意味でそれを教会に寄付して、豪華なカテドラルやキリスト像などを作ることも否定されているので、儲かったお金は、また次の仕事のための投資に回ることとなります。カルヴィニズムでは、利潤を生み出して、次に投資し新しい仕事を作り出すことは神の喜ぶ良いこととされたため、それが、営利を追求するビジネスの発達に拍車をかけたのではないかと、ヴェーバーは書いています。

「プロ倫」のなかで、ヴェーバーは、カルヴィニズムを「神のみをみて、人をみない」と批判しています。宗教上の刺激により加速しはじめた「営利追求」が、やがて、宗教という心の核を失い、営利追求だけが一人歩きし、人の心は荒廃するだろう、と予言したヴェーバー。その原因は、人が宗教を忘れるからというよりも、もともとのカルヴィニズムの観念的な厳格さの中に、人の心を置き去りにする素因があったと考えていたようです。

さて、「プロ倫」は、こんな論考が展開される、観念的な内容の本ですが、リネン産業が登場する箇所は、なんとなく人間くさくて、楽しく読めます。

それによると、むかしから、ヨーロッパで自家栽培のフラックスでリネンの布を織っていたのは農民でした。そして、彼らは定期的に都市の間屋を訪れ、織ったリネンを換金していました。間屋では、公定の品質検査があり、そのランクづけによって、代金が支払われます。また、仲買人を通して、かなり遠い外国にも販路があったようです。

ただ、リネン作りに携わる人たちは、皆、暮らしが成り立って、時々少し多めに儲かったらうれしいな、というくらいで満足していました。1日のうち、働くのは「おそらく5、6時間」で、夜はクラブで深酒したり、気の合う仲間とあつまったり。「牧歌的な暮らし」が、そこにありました。

けれど、たとえば、あるとき、リネン問屋の一族の中でも意欲的な青年が、逆に都市から農村へ出かけ、自分の考える商品を作ろうと思立ちます。そして、資金を親族から借りて、ふつうの農家だったリネンの生産者を束ね、生産を集約させ、効率を高めます。そうすると、農民だった生産者は、「労働者」になります。

さらに、その青年が、小売業もかねて、販路も持つようになると、商品の品質を良くして、マーケットの好みに合わせたり、薄利多売も実行しはじめます。そうして、競争と利益追求の原理が生まれ、人々のお気楽な暮らしは消えて、「厳しい冷静さ」が、そこにとって替わった、とヴェーバーは書いています。やがて、産業革命による大規模化へと突き進む、リネン産業の変貌のプロセスです。

この箇所はかなり具体的な人間像が描かれているのは、ヴェーバーにとって、リネン産業が身近だったことを感じさせます。緻密な論考の中に突如浮かび上がる、クラブに集う、ヨーロッパの「フラックスのおっちゃんたち」のざわめきや笑い声、ビールや煙草の匂い。

その隣で、同じくグラスを傾ける、生身の「ヴェーバー先生」と出会ったような気持ちになるのです。

ヴェーバーの資本主義についての分析が妥当なのか、それを語る知見は私には欠けています。ただ、100年を超えて、ヴェーバーの意味深な予言は、今のわたしたちに、何かを感じさせてくれるので、未だに何かと取りざたされるのだろうか、と感じています。

現代の経済は、信用創造のおかげで実体をはるかに超えてふくらんでいます、リネン産業は実体経済の中にあり、また、大量生産が可能になった今でも、現場の方々の職人気質に支えられている面もつよくのこっているように思います。

わたしのような、自分の暮らしのために、とにかくリネンを好きで使っているエンドユーザーには、昔ながらの「手作り」のオーラをまとったリネン、麻への憧れは、なかなか消えることはありません。

著者紹介 前田 まゆみ

1964年神戸市生まれ。京都在住。絵本作家、LINNET オーナー。

神戸女学院大学で英文学を学びながら、洋画家・杉浦佑二氏に師事。

卒業後、イギリス系銀行に勤務ののち、1994年頃から、絵本作家、イラストレーターとして活動を開始する。おもな著書に「リネンが好き」(文化出版局)「野の花えほん」「いきもの図鑑えほん」(あすなろ書房)「野の花ごほん」(白泉社)、翻訳書に「ポーリーおはなのたねをまく」(PHP研究所)などがある。

「いきもの図鑑えほん」は、2013年国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)推薦「子供向け図書」「生物多様性の本箱」～みんなが生きものをつながる100冊～に選ばれました。



【参考文献】

「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」マックス・ヴェーバー著

大塚久雄訳 岩波文庫

「マックス・ヴェーバー入門」

山之内靖著 岩波新書

「二十世紀を見抜いた男 マックス・ヴェーバー物語」長部日出雄著 新潮社

業界レポート

亜麻（リネン）事情

□ 2013年フラックス（亜麻原草）作付け事情

欧州のリネン原料フラックスの本年度事情は、CELC（欧州麻連盟）及び複数の関係先からの情報によると、例年より2週間遅れの4月上旬よりフランス南部から作付け（種蒔き）が始まり、現状は特に問題もなく経過している。しかしながら、気にかかる点は気温が少し低いことであり、気温が高くなってくる5月以降まで目が離せない状況である。

作付け面積は、昨年比10%～15%少なく約72,000ヘクタールとなっている。減少の理由は、昨年度の長雨による不作のように天候に左右されるフラックス栽培より、安定性のある他の作物（ジャガイモ、とうもろこし、麦など）で得られる収益を当てにした方が良いとの農家の考えかたによる。

□ フラックス原料市況及び原糸の価格動向

昨年度の原料は、長雨による影響でおよそ全体の40%程度しか良質原料が収穫できなかったと報告されている。昨年9月～10月の原草収穫以降、最大の消費先である中国紡績業者の購買意欲が弱く、スカッチング作業の加工賃も過去最悪であった2011年レベルまで下がり、生産調整を余儀なくされる状況にあった。しかし11月に入ると猛烈な勢いで買いが入り、ほんの2～3週間で2012年の原料は完売、その後確保していた過去の原料も3月までに売り切ってしまう結果となった。



現在、欧州に残っている正線、粗線または短線の在庫は、過去最低のレベルまで減少しており、正線原料は昨年対比 平均約28%の値上がりとなっている。

□ 2013年 リネン中国事情

原糸価格は欧州の原料価格値上げ（15～20%）に伴い、特に60L以上は約5%の値上げ、60L糸以下は1～5%の値上げとなっている。尚、中国紡績メーカーは、稼働率半分以下の工場と増設の工場で明暗が分かれたが、全体的には約80万錠と前年と変わらず推移しているものと思われる。

中国麻紡績業界協会は、2013年以降の活動方針として、引き続き麻の製品ビジネスで中国国内の市場開拓に力を入れ、CELC（欧州麻連盟）からの市場開拓協力や日本麻紡績協会からのソフト面での協力も期待している。



ラミー原料の状況

□ 2012年度の中国作付面積と作柄について

作付面積はピークの2006年以降、下降の一途であり、現在も止まりそうにない。2012年は前年比45%以上減少した模様で生産量についても半減の5千t程度で、楽観できない状況が続いている。

1). 2012年の生産量について

多方面の情報を集約すると、全国の作付面積は2011年の13.3千haから2012年は7.3千haに減少したと推測される。主な産地は四川省、湖南省、湖北省、江西省、安徽省であるが、従来の最大産地であった湖南省の減少が著しく、現在は四川省の作付け面積が最大になっている。

原草段階の在庫としては、農家が売り惜しみしている貯蔵分が1万t以上、ラミー原草取り扱い業者の流通在庫が約1.5万t、比較的大規模な企業での在庫が、1.5万tで合計4万t前後と推定される。

2). 原草価格について

現在の原草段階の市場価格は昨年同時期と比べてほぼ同様に推移しているものの、加工費が高騰しており、最終製品はコストアップ状態。各産地間の価格差は大きくはないが、品質のバラツキが出ている。

3). 2013年の見通しについて

長年続いているラミーと他の経済作物との価格差拡大により、農家の作付意欲は衰退している。現在の原草生産量は、やや大きなラミー工場の1～2社を賄える程度のものであり、今後は市場の在庫及び需要動向によっては、ラミー原草の供給不足になりかねない状況になることが予想される。

以上

会員企業紹介 株式会社ダイイチ

<代表者挨拶> 代表取締役社長 鈴木 一男

2012年に創業60周年を迎えました。これを機に、「ダイイチ」という社名にこめられた「イチバン」へのチャレンジや「顧客第一主義の徹底」といった企業姿勢を、まずは社員に浸透させ、続いて取引先、仕入先などのビジネスパートナーや、地域社会へアピールしてまいりました。「お客様のためにできる『イチバン』は何か？」を考え、「人のダイイチ」という意識の向上をはかっています。

お客様にとって、一番のユニフォームパートナーであること。自社のファンがいかに多くいるかが真の強みとなります。会社と会社である前に、人と人。利益のつながりより心のつながりを優先し、お客様との信頼関係をより深めていきたいと思えます。

<企業理念>

私たちは、ユニフォーム事業を通じ、人と環境との調和を創造します。

<会社概要>

設立 1953年5月
資本金 4,050万円
従業員数 115名

<事業概要>

企業ユニフォームの企画、製造、販売、卸、小売
防災商品の販売
レンタルユニフォーム

<取扱業種>

●ホテル・外食サービス ●ショップスタッフ ●アミューズメント ●ワーキング
●医療 ●介護福祉 ●調理 ●イベント ●オフィス（事務）●ドライバー

オリジナルブランド《Wood Bell》

ダイイチプロデュースのハイクオリティ&ハートフルなバイオーダーユニフォームブランド

《ウッドベル》は、お客様満足度の高い、ハートフルなオリジナルユニフォーム。

創業者の「お客様第一主義」の精神に基づき、ニーズを的確にキャッチし、ユニフォーム作りのプロとして完成と技術を形に表現しています。



プルミエール・ヴィジョン レポート

田村駒株式会社
第三事業部 西本 学

2011年より弊社と岩田工房でチームを作り、「Premium Linen by Tamurakoma」という名前で毎年2月と9月にパリで開催される *Première Vision* に出展しています。リネン素材は欧州が本場ですが、目のこえたこちらの方々もうなるような素材開発を目指し毎回提案しています。今回で4回目となり、新しい素材を心待ちにして頂けるお客様も増えてまいりました。

リネン素材をメイン商材に出展している国はイタリアを中心にリトアニア、北アイルランド、ロシアという国々ですが、各国それぞれ特徴がありお国柄がうかがえます。我々も日本人をアイデンティティーとした物作りに重点をおき、繊細さ、計算しつくした表現力を武器に、今後も日本代表の心意気で世界の方々へメイドインジャパンのリネンを提案してまいります。

□ 会社概要

創業 1894年（明治27年3月15日）
資本金 12億4000万円
代表取締役社長 市川政彦
従業員数 378名（平成24年度3月31日現在）
事業内容 繊維総合商社



プルミエール・ヴィジョン レポート

カネマサ莫大小株式会社
代表取締役 百間谷和紀

創業 48 年目を迎え、今年より海外販路を求めて、年 2 回 PV 出展を致します。

昨年 11 月に PV 出展の合格通知を戴き、12 月末には、フォーラム用生地の提出、2 月出展と時間がなく、生地の開発、サンプル準備、展示会用ソフトの開発等、多忙を極めました。その中で感じた事があります。

- 1) 社員のモチベーション向上
- 2) 商品企画のメリハリが出来ること。
- 3) 社員の知識、商材の共有化。

2 月の PV を振り返って、展示会自体は、盛況で殆どのバイヤーにその場でサンプルと価格表を渡すことができ、まずは、上々の第一段階スタートをきったところです。3 月はフォローの為、ロサンゼルス راوندし、現在、着分依頼に対応しているところです。

輸出に携わるのは初めての事なので、外貨建て預金口座開設、原産地証明書発行、インボイス作成等、全てが勉強の毎日です。課題はいくつもありますが、一つ一つ修正解決しながら、少しずつでも前に向かっていき、5 年後にはある程度の規模での海外輸出を想定して頑張っていく所存です。

会社概要

創業 1964 年 6 月 12 日

資本金 1000 万円

従業員数 20 名

事業内容 丸編ニット服地製造販売 ニット製品製造販売

東京事務所 K111 平成 17 年 1 月開設



ブルミエール・ヴィジョン レポート

株式会社森下メリヤス工場
代表取締役社長 森下展行

□ 会社紹介及び PV への道

弊社は、1907年に創業した丸編み生地のニットメーカーです。今年で106年目を迎えました。丸編み機を200台強保有し、昨今は吊り編み機も装備し、設備を保有したテキスタイルメーカーとして日本国内及び世界のラグジュアリーブランドに高感度なジャージを販売する会社です。元々は、黒子となり様々な仕事をこなしていましたが、2008年販売部を東京に作り、自社企画テキスタイルの販売を目指し、「生かされるメーカーではなく、自らの足で生きていく」そんなメーカーになるべく新たにスタートしました。

日本のメーカーは、残念ながらいい技術を持っていても、生かしきれない、そんなメーカーが多く、昔は何もしなくても仕事があり、考える事を忘れていました。今は、残念ながらアピールしないと埋もれてしまう時代です。当社も「井戸の中の蛙になってはいけない」「井戸の水がなくなる前に…」「時代の流れは早い、変化の時代です」そんな思いでもう一度原点に返り、自ら企画し製造販売する、メーカーとして当たり前のことをするべく、テキスタイルメーカーへの脱皮を図りました。その延長として、世界のラグジュアリーブランドに販売するには、まずはMORISHITAというブランドを世界に売り込む必要があります。そこで、PVに挑戦しようという事になりました。

□ PVの出演

今回、2月のPVがデビューとなりましたが、その前から和歌山ニット組合のバックアップによりインターストップ香港に出展したり、数年前から海外販路開拓の事業を行ってきました。しかし、どれもこれもフォローアップ体制ができず、言語の問題などもあり、うまくいきませんでした。ところが、2年前よりJAPAN BRAND「J KNIT WAKAYAMA」により、一気に海外販路事業が軌道に乗り始めました。その集大成がPV出展です。その前に、NYで商談会を開催するなど経験値もプラスしていきました。

□ 出展の感想

一言で表現すると、非常に衝撃的でした。実際、世界のラグジュアリーブランドが、多数来場し、非常に高評価を得ることができ、一気に視界が開けました。残念ながら日本のマーケットは、いい商品を作っても理解してもらえないブランドが少ない状況です。しかし、やはり世界の一流デザイナーは、よく生地をわかっている、言わば日本のメーカーのこだわり、日本人の繊細な商品作りを理解してくれるなど、非常に楽しく商談をすることができました。いい商品は、評価してくれる、そんな土壌がヨーロッパにはあります。ヨーロッパで成功し、アメリカに売る。但し、好みは違います。日本のように、同質化されたマーケットではなく、個別対応が必要です。

もうひとつ、ラッキーであったことは、弊社には歴史があることです。この点は非常に海外では評価されました。

□ 今後の展望と課題

今後海外マーケットに向けての展望としては、日本の編みの技術+日本の糸+独自の加工技術、これを組み合わせた独自商品の開発が必要です。間違いなく、今の時点で日本のテキスタイルの技術は世界一です。だから、可能性が高いのです。あとは、企画力をつけることが重要です。最後にコミュニケーション力です。やはり語学がある程度できないと、細かな打ち合わせや、風合いなどのニュアンスが伝わりません。ある程度の語学力は必要です。

生地企画の面では、やはり毎年新しいものを作り続ける企画力と編み地の開発、染工場の技術、これらの組み合わせです。弊社はニッターなので編み地の開発と糸の組み合わせは得意です。あとはヒット商品の精度を高めることです。技術力の要る編み地の開発、職人にありがたい自己満足におちいるのではなく、マーケットを見据えた開発。これが重要です。

最後に、日本で作った商品が世界の人に売れる、繊維は非常に楽しい商売であることを改めて実感できました。

□ 会社概要

創業	1907年
資本金	1000万円
従業員数	23名
事業内容	丸編みニット生地製造販売 メディカル資材製造販売



□ 沿革

- 1907年 森下専太郎氏スイス製吊り編み機5台購入し創業開始
- 1920年代 本社(和歌山市鷹匠町)に移転、織物のネル、肌着生産に着手
- 1930年～40年 戦争、統制経済の影響をうけて、設備売却を余儀なくされる。
戦後、丸ゴムにてメリヤス再開
- 1951年 株式会社森下メリヤス工場とする
- 2008年 新たな価値の提案、開発を発信するために東京オフィスを開設
- 2013年 PV出展と同時にテキスタイルブランド MORISHITA を立ち上げる

麻の最新技術レポート

□ 繊維のオーガニックへの取り組みについて

トスコ株式会社 生産技術部

【オーガニックの流れ】

近年、自然志向の高まりや環境保全への関心からオーガニック商品が話題となっており、食品分野についてはさまざまな商品が販売され、すでに定着しているものもあります。

衣料分野においてもまずオーガニックコットンが製品化され、近年目にする機会も増え、多くの製品が販売され愛用されています。

このオーガニックコットンが生まれてきた背景は、環境と人権の問題に起因しています。世界の耕作面積の約 2.5% に綿が栽培されていますが、1990 年代には農薬使用がピークに達し、殺虫剤などは世界の使用量の 20 数% が綿の栽培に使われました。その後、使用量は減らされてきましたが、それでも 2008 年の段階で、殺虫剤は 15.7% も使われていますし、殺虫剤をはじめ落葉剤・除草剤などの農薬全体としては、6.8% を占めています。

農薬は、人間や動物、植物、すべての生き物に有害な物質で、当然なことながら、土壌中の有用微生物まで殺してしまい、土力が失われ収穫量は少なくなります。農民は収穫量を上げるために、さらに化学肥料や農薬に頼り、それらを購入するために多くの借金に苦しむことになり、農薬使用による悪循環が発生しています。子供たちが学校にも行けず、労働者として農業に駆り出されている、それで成り立っているコットンの栽培の現状は発展途上国による人権問題にもなっています。

農業の部分だけではなく、それを糸にして生地にして製品にする工程においても効率を追い求めれば薬品に頼ることにもなりかねません。そこで環境にダメージを与えることとなります。(参考：日本オーガニック・コットン協会 HP)

このような現状を改善するためにオーガニックコットンが生まれました。その思想が他の繊維にも広がり、現在ではオーガニックリネンやオーガニックラミー、或いは動物繊維であるウールやシルクについてもオーガニック繊維として様々な取り組みが行われています。

【オーガニック繊維の認証について】

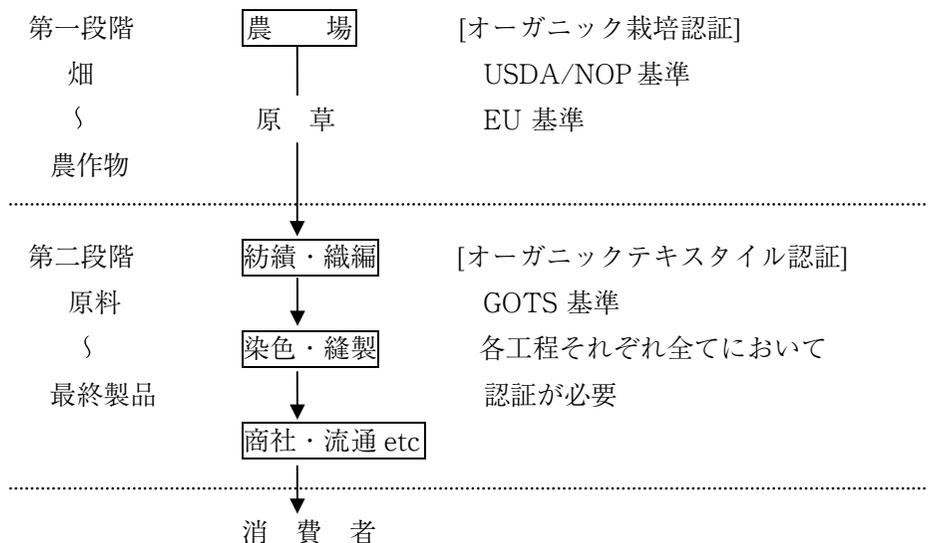
オーガニック繊維は、物性面や分析値においては、非オーガニック繊維と明確に区別できるほどの差はありません。従って、この繊維が正しくオーガニックな農法で栽培されたかどうか確認をするための認証を受ける必要があります。また、農場を離れた後のテキスタイル加工についても、原料のオーガニック繊維が正しく使用されて、オーガニックにふさわしい環境負荷の少ない加工で作られたものであるか確認するための認証を受ける必要があります。

つまりオーガニックの認証については農場段階のオーガニック栽培認証と製造加工分野のオーガニックテキスタイル認証の二つを受ける必要があります。

農場段階においては、オーガニックの作物を栽培する畑と、そこで収穫される作物が認証の対象となります。

化学肥料や農薬を使用せず、有機肥料などを使って農作物や土の能力を生かす栽培法により、3年以上の移行期間（転換中）を経て、オーガニックの畑として認証され、そこで栽培される作物がオーガニックとして出荷できるようになります。

テキスタイル認証においては、オーガニックで栽培された原料繊維を他の非オーガニック繊維と混ざり合うことのないように工程管理を行い、オーガニック原料のトレーサビリティ（生産履歴の追跡可能性）が確保され、化学薬品の使用による健康や環境負荷を最小限に抑え、労働の安全や児童労働の禁止など社会的規範を守って製造加工されなければなりません



【麻のオーガニックについて】

ここではトスコ(株)におけるオーガニックラミーの認証について説明します。

当社では、中国四川省にある自社契約農場において、EU及びUSDA-NOP基準のオーガニック農産物等の生産方法に基づいたラミー栽培を2009年より開始し、2010年にオーガニック認証機関であるコントロールユニオン（CU）の審査を受けて、2011年に世界で初めてオーガニックラミー（転換中）の認証を受けました。

加工段階においても、精練およびトップ工程まではテキスタイル製品の世界的なオーガニック基準であるGOTSの認証を取得しております。

それ以後、毎年CUの審査を受けており、農場については2012年について転換中が外れ、正式なオーガニックラミーとして認証されました。これにより、世界で唯一のオーガニックラミー原料の供給元となりました。

現在は、紡績工程がある日本の工場と中国の工場でGOTS申請の準備が行われています。

オーガニックリネンについては、ヨーロッパの取り組みが早く麻の中では最初に認証を受けています。現在、原料栽培段階において日本企業の認証は無く、主にヨーロッパにて生産された認証原料、及び製品が使用されています。

GOTS とは…

Global Organic Textile Standard の略で認証機関の国際的なオーガニックのワーキンググループによって定められた国際認証です。

GOTS の認証では主に以下の事項が要求され、最終製品には GOTS ロゴをつけることができます。

- ❖ 有機製造方法に関する EU の (EEC) 規則に従った有機農法の認証を受けた原料を使用している。あるいは、アメリカの USDA/NOP (米農務省 / ナショナル・オーガニック・プログラム) 認証を受けた原料を使用している
- ❖ 認証されたオーガニック繊維が 70% 以上含まれている
- ❖ 製品には GMO (遺伝子組み換え) 技術を使用した材料を含まない
- ❖ 製造および加工は、環境に悪影響を及ぼすことの無い状況で行なわれている
- ❖ 加工助剤は GOTS の規定に従って使用されている
- ❖ トレーサビリティ (生産履歴の追跡可能性) が保たれる

【終わりに】

麻の歴史は古く、一万年前にエジプトでは、すでに麻が栽培され、麻布が作られていたといわれています。麻は炭素固定能力が高く、再生可能資源であることから、もともと地球環境にやさしい繊維ということが出来ます。

人類と共に生まれてきた環境にやさしい繊維として、その栽培方法や製造工程においても環境に配慮した形でのものづくりを行い、これからも人類と共に生きる繊維として、存在価値を高めていけるのではないかと考えています。

日本麻紡績協会 会員企業一覧 125 社、1 協同組合 (五十音順)

ア	青葉株式会社 株式会社 AKAI 株式会社アクシス 浅記株式会社 朝日加工株式会社 旭紡績株式会社 アテンション・ジャパン・プロダクツ 有限会社 アトモスフェール・ジャポニ株式会社 アンドー株式会社 一陽染工株式会社 今村株式会社 株式会社イワセ 岩田工房 エイチプラスパートナーズ株式会社 栄光染色株式会社 越前屋多崎株式会社 エップヤーン 有限会社 株式会社エヌ・ビー・アール 近江織物株式会社 株式会社大志茂 株式会社おおまえ 大森撚糸株式会社 オガワテクノ株式会社 小千谷織物同業協同組合	カ	カネマサ莫大小株式会社 兼松繊維株式会社 有限会社金丸整理工業 甲株式会社 有限会社川登 株式会社カンセン 菊高産業株式会社 岐セン株式会社 株式会社北国生活社 株式会社キョウワソーイング 株式会社金原 栗原株式会社 グロリア株式会社 KB ツヅキ株式会社 株式会社ケンランド 江東製織株式会社 小泉製麻株式会社 興和株式会社	ク	有限会社小啓修整織物 株式会社コトノカ サイボー株式会社 澤染工 有限会社 株式会社サンアイ 株式会社三幸 株式会社三幸ソーイング 株式会社三和リネン 有限会社シービープランニング 滋賀麻工業株式会社 信友株式会社 シバテクニテクス株式会社 島村メリヤス株式会社 株式会社ジャスカ 聖天株式会社 新成物産株式会社 新陽株式会社 鈴木晒整理株式会社 有限会社鈴由商店 装研株式会社 株式会社ダイイチ 株式会社大栄メリヤス 株式会社大長 大和染工株式会社 (今治) 高島株式会社 株式会社タグチ 株式会社武田商店 株式会社タケミクロス タッカ株式会社 辰野株式会社 田村駒株式会社 蝶理株式会社 有限会社ディー・エム・ピー 帝国繊維株式会社 有限会社テキスタイルバガ 株式会社テザック 東興産業株式会社 稲京株式会社 東洋繊維株式会社 東洋物産株式会社 東和株式会社 株式会社トーホーユニ	ケ	株式会社トスコ 殿岡服飾工業株式会社 有限会社トモ企画 豊川テキスタイル株式会社 豊田株式会社 中伝毛織株式会社 中村株式会社 有限会社ナカモリ 西陣染色株式会社 西本株式会社 西山繊維株式会社 日新実業株式会社 ニット技研	キ	ハイランドテクノ株式会社 服部テキスタイル株式会社 平岡織染株式会社 株式会社廣瀬商会 廣瀬又一株式会社 藤居織物工場 ブルーミング中西株式会社 株式会社穂高商事 株式会社麻絲商会 丸佐株式会社 丸進工業株式会社 丸紅株式会社ライフスタイル部 株式会社丸萬 三重ユニフォーム株式会社 株式会社三崎 ミマス株式会社 株式会社武蔵富装 株式会社むつ縫製 株式会社森下メリヤス工場 森菊株式会社 山甚物産株式会社 ヤングトレーディング株式会社 株式会社ユニウェル 株式会社ユニックス ユニリネン株式会社	ク	株式会社リード商会 有限会社リネット リネンハウス株式会社 株式会社脇本商事
---	---	---	--	---	---	---	--	---	--	---	---

会員企業ネットショップ URL 一覧 (五十音順)

アテンション・ジャパン・プロダクツ有限会社	http://ajp.shop-pro.jp/
エイチプラスパートナーズ	http://www.theshophouse.net
株式会社エヌ・ビー・アール	http://cadeauya.nbr.jp/
株式会社おおまえ	http://www.oomae.co.jp/main/goods/bagmenu01.htm
栗原株式会社	http://www.ramino.ecnet.jp/
KB ツヅキ株式会社	http://www.aSabo.com/online_shop.html
小泉製麻株式会社	http://www.rakuten.co.jp/kirakufame/
株式会社北国生活社	http://www.amanosato.jp/
株式会社コトノカ	http://www.kotonoca.com/
有限会社シービープランニング	http://studioecru.shop-pro.jp/
株式会社タケミクロス	http://www.takemicloth.co.jp/
辰野株式会社	http://tatsuno-uniform.net/
帝国繊維株式会社	http://www.linenshop.jp/
株式会社ダイイチ	http://e-uniform.jp/index.php
株式会社ディー・エム・ピー	http://www.dmp-webshop.jp/
有限会社ナカモリ	http://www.rakuten.co.jp/nakamori
ブルーミング中西株式会社	http://www.handkerchief-gallery.com/
ブルーミング中西株式会社	http://www.room-recipes.com/
株式会社麻絲商会	http://www.mashi.co.jp/
森菊株式会社	http://www.rakuten.co.jp/kijistore/index.html
株式会社ユニックス	http://www.rakuten.ne.jp/gold/merry-more/
ヤングートレーディング株式会社	http://asafuku.jp/
有限会社リネット	http://www.lin-net.com/shop_linnen.html
リネンハウス株式会社	http://www.linenhouse.jp/
株式会社脇本商事	http://www.label-kun.com/

日本麻紡績協会

〒 103-0013 東京都中央区日本橋人形町 1-1-10

TEL 03-3668-4641

FAX 03-3668-4642

Email jp-asabo@cb.wakwak.com

URL <http://www.asabo.com/>

平成 25 年 5 月 15 日発行

本誌表題について

「麻につるる」は、ことわざ「麻につるる蓮(よもぎ)」に由来しています。ことわざの意味は、「曲がって生えやすい蓬でも、真っ直ぐに生える麻の中で育てば、曲がることなく自ずと伸びる」ということです。転じて、善良な人々に交われば、殊更に教育をしなくとも自然に善良な人に育つ、という意味に用いられます。日本麻紡績協会におきましても、麻に携わることを生業(なりわい)としている我々は、このビジネスに打ち込んでいる、それだけで真っ直ぐなどビジネス人生を描いて、成長していくことができる、そういう想いと願いを込めて、当協会誌のタイトルといたしました。

Japan Linen, Ramie & Jute Spinners' Association



6月の北フランス、フランダース地方に広がるリネン畑の花景色

日本麻紡績協会

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 1-1-10

TEL: 03-3668-4641

FAX: 03-3668-4642

Email: jp-asabo@cb.wakwak.com

URL: <http://www.asabo.com/>